

会議名	令和 6 年度 第 1 回 板橋区産業活性化推進会議
開催日時	令和 6 年 7 月 2 2 日（月） 1 4 時 0 0 分から 1 6 時 0 0 分まで
開催場所	板橋区役所 第 3 委員会室
出席者	13 人 〔委員〕堀田 和彦氏 山田 敏之氏 原田 香奈子氏 大島 隆夫氏 岩月 宏昌氏 齊藤 得彌氏 木村 博之氏 大矢根 康隆氏 平松 有恒氏 家田 彩子氏 〔区側出席者〕藤原課長 池田課長 木内支所長 〔産業振興公社〕木曾事務局長
会議の公開（傍聴）	<u>公開（傍聴できる）</u>
傍聴者数	0 人
議 題	（１） 板橋区産業振興事業計画 2 0 2 5 進捗報告 （２） 次期板橋区産業振興構想策定方針及びスケジュール （３） 意見交換
配 布 資 料	資料 1 板橋区産業振興事業計画 2 0 2 5 の進捗について 資料 2 板橋区産業振興構想 2035 策定方針(案)について
所 管 課	産業経済部 産業振興課 産業支援係 （ 3 5 7 9 － 2 1 7 2 ）
以下、議事要点	
●確認及び紹介 ▷産業振興課長 配布資料の確認、関係課長の紹介。 ●会議の公開について ▷会長 付属機関等の会議の公開に関する基準に基づき公開されることを説明。 ●議題（１）板橋区産業振興事業計画 2 0 2 5 の進捗について（R 5 年度末実績） ▷産業振興課長 資料 1 総括表に基づき、評価結果について説明。その後、重点施策に紐づいた事業（事業 3「ベンチャー企業・起業家支援賃料補助金」、事業 4「女性の起業入門セミナー」、事業 14「農のサポーター」、事業 16「就労支援事業」及び「人材確保支援に関する事業」、事業 25「キャッシュレス決済推進事業」、事業 29「SDGs/ESG 経営推進支援事業」、事業 33「いたばしのいっぴんリニューアル事	

業」、事業 58「ものづくり企業地域共生推進助成」、事業 63「ビジネス環境適応事業助成金」)の進捗について説明。

▶委員からの質問・意見

(委員)

創業等、相談は活発に行われているようだが、相談者の年齢層、属性など特徴はあるか。

(事務局)

年代は様々であるが、企業を目指す女性の相談は多い傾向である。

(委員)

①今回示された全体総括について、評価方法は区の計画においては一般的なものか。②ベンチャー企業・起業家支援賃料補助金は、当初計画10件のところ50件の申請があり、予算やマンパワーは問題なかったか。一方、ものづくり企業地域共生推進助成は、申請件数が少ないことの分析はしているか。

(事務局)

①計画によって様々ではある。産業分野では、目まぐるしく変化する環境において、当初立てた計画と合わない状況がある。そのなかで、7割は「達成」という評価は、一定の成果、コロナ渦からの回復を示せたと考える。②ベンチャー企業・起業家支援賃料補助金については、計画を上回る実績から、ニーズにマッチした制度と捉え、予算等やりくりで対応している。ものづくり企業地域共生推進助成は、事業者に制度の情報が届いているか、広報周知も課題と考えている。

(委員)

今回、特に説明した事業を重要として選択した理由は。予算規模または事業の成果(順調なもの)か。

(事務局)

予算規模や、分野(施策等)も網羅できるようにピックアップした。また、今後特に注力すべきと考えている事業を選定した。

(委員)

説明に予算規模や事業の写真、二次元コードで動画が見られるなどすると、事業内容がイメージしやすくわかりやすいと思われる。

(委員)

順調なものより、一部遅延、対応が必要なものを説明するほうが、本会議の趣旨に合い、意義があるのではないか。

(事務局)

ご指摘のとおりではあるものの、限られた時間の中で難しいところもあるので、ぜひ気になるところについてご意見いただければありがたい。

(委員)

経営相談はかなり多くあることが読み取れる。創業支援融資・事業承継支援融資は計画の目標数がそれほど大きくないうえ、実績も少ない。区として、どのように捉えているか。

(事務局)

できるだけ区内で創業してほしい、また築いてきた事業を引き継いで残していくことは重要と考えているが、まだまだ足りていないため、実を結ぶ支援をしていきたい。

(委員)

地域金融機関は、区と連携していくべきと考えている。現場において、区への提出書類（創業の事業計画書など）の作成に時間がかかる、また自己資金の範囲内でしか融資できないとの制約があると聞いている。創業者に寄り添った資金調達支援をできるとよいと考える。

(委員)

区内で人材不足で事業承継できないケースもあるか。

(事務局)

具体的事例を把握できていないが、後継者不足は耳にしている。一方で、区内の印刷事業者で、元々のつながりから、継続が困難な小規模な事業者を従業員ごと吸収したケースも聞いている。すぐに実を結ぶことは難しいと考えるが、今後行政が事業者間のつながりを支援できるよう検討していく。

(委員)

板橋は産業が強いと聞く。後継者について課題があることも認識した。創業希望者に、既存の区の産業の強みを伝えたり、事業者につなげることはあるか。

(事務局)

区立企業活性化センターにて創業含め、相談内容に応じた専門家チームで支援を行っているが、区産業の強みまで言及できているか把握していない。

(委員)

自らやりたいことがある創業者と、既存技術を探している創業者もあると思われる。後継者を探す事業者とベンチャー企業などをマッチングできるとよい。

(委員)

上記のようなマッチングは、産業見本市においてカバーできているか。

(事務局)

産業見本市では、参加企業同士、来場者とのマッチングを果たす可能性はある一方で、創業希望者と後継者探しの企業をマッチングさせるという内容は難しいと捉えている。

(委員)

ニーズとシーズがマッチするとよい。創業希望者に産業見本市も案内するなど、見本市においても創業者と既存事業者のつながりを期待する。

(事務局)

産業見本市に限らず、様々な事業でもつなげていきたい。事業者間をつなげる仕掛けは区としての課題と捉えており、次期構想にもつなげていく。例えば、相談窓口

も、融資は産業振興課、事業承継・経営改善は企業活性化センター、専門的な相談は板橋区産業振興公社の専門家派遣など、ばらついていて分かりにくい点があり課題である。M&A についても、信頼関係のある区内企業同士だと良いと考えるものの、そもそものつながり、信頼関係の形成がない。

事業計画の進捗報告について、産業は時代の流れに大きく影響されるが、5 年、10 年前に決めた目標値に対して、数値として「達成」「遅延」という評価が、本質的な評価とは考えていない。なので、数値が未達の負の面をピックアップしてご説明するのではなく、区内企業にしっかりヒアリングしたうえで課題を認識し、重要と捉えている部分をご説明した。次期構想について、事業者、委員の意見を踏まえコンセプトを変えていく心づもりでいる。その視点で次の議題について聞いていただけるとありがたい。

●議題(2) 次期産業振興構想 2035 策定方針について

事務局から資料をもとに説明。要旨は次のとおり。

・基本的な視点

現行の産業振興構想 2025・事業計画 2025 は R7 年度で期間満了となるため、R8 年度からの 10 年間の基本的方向性を示していくため、板橋区産業振興構想 2035 策定を行う。

東京商工会議所や産業連合会（共に板橋支部）から意見をもらうなかで、大きな課題として人材不足、企業間のつながりの希薄さ、相談すべきところがわかりにくいなどという意見があった。それらを踏まえ、基本的な視点を 3 つ定めた。

めまぐるしい環境変化に対応し、合わせていかれるよう企業支援する「変革」。

戦前から続く高い技術、ものづくりを支える企業のブランド価値を高め守っていくつなぎ・守る「集積」。

企業同士、人と人のつながりができる環境づくりとして「連携」。

これらについては、みなさんとの議論のなかでブラッシュアップしていくものと考えている。

・構想の計画期間と位置づけ

位置づけとしては、区の基本構想・基本計画・NO.1 実現プランなど、区の全体の計画と環境・観光・まちづくりなど各種個別ビジョン・計画と整合・連携をとって本構想を策定していく。

・事業計画について

特に変化が速い産業分野において、区としては、変化に対応できるよう、これまで策定していた個別事業計画は策定しない考え。大きな方向性は構想の中で定め、事業については、毎年同じ事業をただ実施するのではなく、評価・見直しを徹底し、予算編成と合わせ見直ししていくものと考えている。詳細の評価方法等は、構想策定過程において検討していく。

・検討体制及び策定方法

資料を基に、庁内外の会議体についてスケジュールを含め説明。

構想策定にあたっては、本会議体が重要な役割を担うものと認識している。庁内については、関係課長で構成する庁内検討会を設置し、庁議へ審議を進めていく。庁

外としては、本会議の下部に検討部会を3つに分け構成予定（製造・建設業、商業・サービス等、農業）。

現行構想においては、工業分野の比重が大きいですが、次期構想においては、様々な分野の事業者にも、広く行き届くものにする必要性を感じている。検討部会で集中した議論を行い、本推進会議にあげながらつくり上げていきたい。検討部会は、各産業支援団体やJAあおば、他会議体等から人選、お願いしていく予定。

・区内主要産業現況調査と今後の予定

同調査を実施した。今後、集計・分析を行う。

次回、本推進会議は12月頃の開催を予定しており、中間のまとめ案を提示し議題とする。その後、今年度は2月に開催、年3回開催を予定。

▶委員からの質問・意見

（委員）

区の基本構想はどのように変わるのか。大きく変わるのか。人口減少への対応は不可欠となるが、産業はどうしていくか。

（事務局）

区の基本構想については、これから審議が進んでいくところ。庁内で課題共有しており、人口減少については課題として上位にあり議論は進んでいくものと捉えており、産業部門としても同様の考え。

（委員）

板橋区の基本構想は、都政も盛り込んでいるのか。都政に関連して検討していく位置づけか。

（事務局）

区の基本構想は政策企画課で進めているところ。国・都があつての区という構造は変わりなく、影響はあるものとお考えいただいてよい。国や都があつたうえで、区の地域性を捉えてつくっていくのが区の基本構想となる。

（委員）

区の基本構想も切り替わる、良いタイミングなので、区においてワンストップで解決するサービス提供体制・運用を検討すべきでは。

（事務局）

ワンストップ窓口を整えることが事業者にも有益と考えている。産業支援施設の配置の見直し含め、検討していく。

（委員）

事業計画について、似たような計画事業が重複していると感じる。構想検討過程で、部会のレベルから、部会間の連携もとっておくとよいのでは。事業重複解消にもつながると考える。

（事務局）

部会間で情報共有しつつ、連携方法を検討していきたい。

(委員)

現場の声を吸い上げるのはすばらしい。最終的には満足度、使いやすさなど、各事業からのフィードバックを反映していったほしい。

ただ、事業数が多いと感じる。始めるとやめられないところがあると思う。検討部会が始まる前に、事業数の上限を決め、統廃合を検討していくと、スクラップできると思う。

(事務局)

区における他の計画も同様だが、計画の数値チェックのための計画となっており、どのような産業をつくっていくべきかを考え見ていない。委員のご指摘で気が付いたところもある。今後の新たなやり方（評価方法等）を庁内で認めてもらえるよう、ぜひ応援してほしい。産業界は変化が激しく、都度変化させ、ボリュームも検討しながら進めていきたいと考える。委員には、数値よりも内容をしっかり見て助言をしてほしいと考えている。委員の負担は増えるかもしれないが、職員だけではなく外部有識者、企業等からの意見が重要と考えている。

(委員)

1度始めたらやめられない傾向がある行政は、断捨離し、必要ないこと切っていくことも必要。

現行の構想策定時の本会議の委員はほぼいないので、無責任なことは言えない。コロナ後の社会情勢、働き方も変わってきた。変化を踏まえて次期構想を策定してほしい。

(委員)

現場が主体的に、全体コントロールし、バランスがとれるようマネジメントしてほしい。新しいことを始め、既存事業をやめられず事業が増えていく傾向がある。必要なことに注力できるような体制をとってほしい。

(事務局)

事業数含めマネジメントしていく。事業が広がりすぎないように、大きな目標を見据え、時代に合わせて進捗管理していきたい。

(委員)

多くの事業者が産業振興構想のことを認知していない現実がある。決めたことをしっかり区から周知していくことが必要。

(事務局)

本構想が知られていないことは課題と認識している。現行構想は、光学・印刷等の一部の業種にスポットがあたっているので、次期構想は、様々な企業、産業全体のことを考えたものとなるよう検討していきたい。これからも企業の生の声を聴いていきたい。

●議題（３）意見交換

- ・ 現行の構想との違いを示しながら、基本的な視点を中心にブラッシュアップしてつ

くっていけると良い。次期構想は、将来ビジョンとして示せると良い。

- ・商業の現状として、商店街の担い手不足が大きな課題。都内商店街は年間50ずつ減少しているなか、板橋の商店街でもどのように維持していくのが難しい課題。商店街の成長戦略はどこにあるのか見出しにくい。会員規模が小さくなり、商店街運営が難しくなる、外国人経営も多く、言語・文化の違いからコミュニケーションが難しい現状。

たとえば商店街が火事になった場合、行政はどんな支援ができるか。街路灯など行政支援で設置している。それがなくなったときに、即座に対応が必要なことも出てくるかと思う。商店街はまちづくりの一環として運営しているので、危機的状況を迎える前に、施策を検討してほしい。構想策定後、いかに具現化していくかが重要だと感じている。行政は平等が原則だが、商店街連合会は所属しているか、していないかで対応が異なる。毎年の変化が大きい、この波にいかに対応できるか。

- ・板橋区の農業については、農地の減少が課題。相続があると、農地を手放し、収入となる土地にしようとする傾向がある。農家が農地を残したいと思わせるような施策、後押しがあれば良いと思うが現実的には難しいと思う。

自分たちで何とかしないとならないと思うが、10年後どうなっているかわからない。

- ・10年前と比べ環境が変化し、物価高騰、賃金アップもされていると報道されるが実感はわからないところもある。これから長期金利も上がっていくが、区民からすると物価高騰と変わらない。これは構想のなかにも盛り込んでいく必要がある。現状と課題について、PDCAを回して、立ち止まって課題を考え、実行することが必要だと思う。

- ・農業、商業分野について先行きが見えない。人口減少は確実ななか、どう捉え構想策定していくかが重要。人口減少は、出生率の減少が要因のひとつなので、子育て支援策が必要。地産地消、区内循環型をきちんとしていくべき。大人の働く社会をしっかりと子どもに見せ教え、教育との連携をしないと、子どもが居つかないし、子育てしようとする親がいなくなってしまう。子育て世帯に税優遇するなど、すべて洗いざらい1から考えなおす必要がある。商業の在り方、農業の支援策も同様。板橋の農業＝苦しい、ではなく、こんな良いことがあるという行政支援があることで農業は活発化するのでは。第1次産業は必要と考えるので、それを大切にしていって産業振興構想をつくってほしい。

- ・人口減少が問題視されるなか、都内は人口が流入しているので実感がわきにくい。今後確実に減っていく。これまで起きていないことが起こる、予測が難しい時代の構想策定となる。本当に10年先のことが決められるのか、難しい策定となるが、みんなでつくってほしい。

- ・みなさんが板橋をより良くしたいと熱い思いがあって素晴らしいと感じる。中身を良くすることと、しっかり数値で説明すること、両方が必要。議論することで、板橋の産業をより良くしていきたい。10年後には外国人が増え、女性の社会参加も増える、その方たちに魅力的になっているか、本音を聞ける場が大事。関係者が本当に良いと思えるかを考えていくべき。本会議の委員の男女比もこれでいいのか疑問はある。

- ・ これまで数年、本会議の委員を務めてきたが、今日が最も実りにつながる議論ができていていると感じる。構想策定には、「連携」が大事。産業の計画ではあるが、板橋という地域をどうしていくか、生きがいのある楽しいまちとなるよう知恵を出し合っていくことが必要と思う。現行の構想・計画２０２５の反省をしたうえで、大胆に次期構想を策定してほしいと思う。

会議の内容は、以上のとおりである。